



613-001184 Rev.B 110128

CentreCOM® GS900M V2シリーズ 取扱説明書



ギガビット・インテリジェント・スイッチ

CentreCOM® *GS900M V2*シリーズ

取扱説明書

CentreCOM®
GS900M V2 シリーズ

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んだ使用を意図した設計および製造はされておられません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

安全のために

必ずお守りください

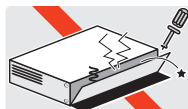


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品は AC100-240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3ピン
コンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動の時は電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものをのせない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。

指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様で定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほごりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因となります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



プラグを
抜く

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらさない



中性洗剤
使用



固く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

このたびは、CentreCOM GS900M V2シリーズをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。ごぞいます。

CentreCOM GS900M V2シリーズは、10/100/1000BASE-TポートとSFPスロットを装備したギガビット・インテリジェント・スイッチです。

CentreCOM GS908M V2は10/100/1000BASE-Tポートを8ポートとSFPスロット1ポート装備、CentreCOM GS908M V2-4PSは10/100/1000BASE-Tポートを8ポートとSFPスロット2ポート装備し、10/100/1000BASE-Tポートのうち4ポートがPoEポートになっています。

CentreCOM GS916M V2/GS924M V2は10/100/1000BASE-Tポートを16/24ポート装備し、そのうち2/4ポートがSFPスロットとのコンボ(共有)ポートになっています。

SFPスロットはオプション(別売)のSFPモジュールの追加により多様な光ポートの実装が可能です。

CentreCOM GS908M V2は、ファンレス設計により静音で小型なため、設置場所を選びません。

CentreCOM GS908M V2-4PSはIEEE 802.3at準拠のPoE+機能を搭載しており、1本のイーサネットケーブルで通信データと高出力の電源を供給することが可能です。デュアルラジオ対応IEEE 802.11nワイヤレス アクセス ポイントをはじめ、PTZ(パン/チルト/ズーム)対応のセキュリティーカメラなど、広帯域かつ高い電源供給能力が求められる受電機器に対する電源供給を行います。

豊富な省エネ機能を実装しており、特にトリガー機能を用いて指定期間LEDの消灯、ポートの機能停止(シャットダウン)、本体の電源オフ、PoEポートへの給電の停止を実行できるエコトリガー機能は、大幅な省電力効果を実現するほか、ネットワークへの侵入を完全に防ぐセキュリティー機能としても効果があります。

Telnet、コンソールポートのほかWeb GUIからも各機能の設定が可能です。ユーザーインターフェースはコマンドライン形式をサポートしています。また、SNMP機能の装備により、SNMP マネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良(機能拡張、不具合修正など)のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、弊社ホームページから入手してください。

なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。また、お読みになった後も、製品保証書とともに大切に保管してください。

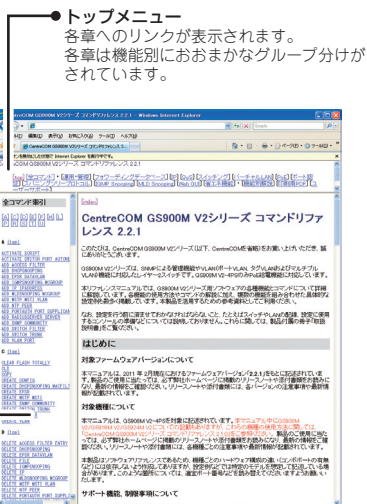
○ 取扱説明書(本書)

本製品のご使用にあたり、最初に必要な準備や設置のしかたについて説明しています。設置や接続を行う際の注意事項も記載されていますので、ご使用前に必ずお読みください。

○ コマンドリファレンス(弊社ホームページに掲載)

本製品で使用できるすべての機能とコマンドについて詳しく説明しています。各機能の使用法やコマンドの解説に加え、具体的な設定例も数多く掲載しています。コマンドリファレンスは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>



コマンドリファレンス画面

○ リリースノート(弊社ホームページに掲載)

ファームウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とコマンドリファレンスの内容を補足する最新の情報が記載されています。リリースノートは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。





<http://www.allied-telesis.co.jp/>

はじめに


表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

本書は、以下の製品を対象に記述されています。

- CentreCOM GS908M V2
- CentreCOM GS908M V2-4PS
- CentreCOM GS916M V2
- CentreCOM GS924M V2

「本製品」と表記している場合は、特に記載がないかぎり、CentreCOM GS908M V2/GS908M V2-4PS/GS916M V2/GS924M V2の4製品を意味します。場合によっては、CentreCOMを省略して記載します。

製品の図や画面表示例は、特に記載がないかぎり、CentreCOM GS916M V2を使用しています。

画面表示

本書で使用されている画面表示例は、開発中のバージョンを用いているため、実際の製品とは異なる場合があります。また、旧バージョンから機能的な変更がない場合は、画面表示などに旧バージョンのものを使用する場合があります。あらかじめご了承ください。

目次

安全のために	4
はじめに	6
最新のファームウェアについて	6
マニュアルの構成	7
表記について	8
1 お使いになる前に	11
1.1 梱包内容	12
1.2 概要	13
特長	13
オプション (別売)	13
1.3 各部の名称と働き	16
GS908M V2 / GS916M V2 / GS924M V2	16
GS908M V2-4PS	21
1.4 LED表示	26
ポートLED	27
SFPスロットLED	28
ステータスLED	28
2 設置と接続	31
2.1 設置方法を確認する	32
設置するときの注意	33
2.2 19インチラックに取り付ける	34
2.3 オプションを利用して設置する	36
19インチラックマウントキットを使用する場合	36
壁設置ブラケットを使用する場合	37
壁設置用磁石を使用する場合	38
2.4 ネットワーク機器を接続する	39
ケーブル	39
2.5 PoE対応の受電機器を接続する	40
本製品のPoE給電仕様	40
受電機器の接続	43
2.6 コンソールを接続する	44

目次

コンソール.....	44
ケーブル.....	44
2.7 電源ケーブルを接続する.....	46
2.8 設定の準備.....	48
コンソールターミナルを設定する.....	48
本製品を起動する.....	49
2.9 操作の流れ.....	50
3 付録	53
3.1 困ったときに.....	54
自己診断テストの結果を確認する.....	54
LED表示を確認する.....	54
ログを確認する.....	55
トラブル例.....	56
3.2 SFPモジュール.....	60
SFPモジュールの取り付けかた.....	60
3.3 Web GUI.....	62
設定環境.....	62
設定の準備.....	63
ログインする.....	64
画面の構成.....	65
メインエリアの操作.....	67
設定を保存する.....	68
3.4 ハイパーターミナルの設定.....	70
3.5 Telnetクライアントの設定.....	72
3.6 仕様.....	73
コネクタ・ケーブル仕様.....	73
本製品の仕様.....	76
3.7 保証とユーザーサポート.....	78
保証、修理について.....	78
ユーザーサポート.....	78
サポートに必要な情報.....	78

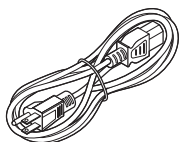
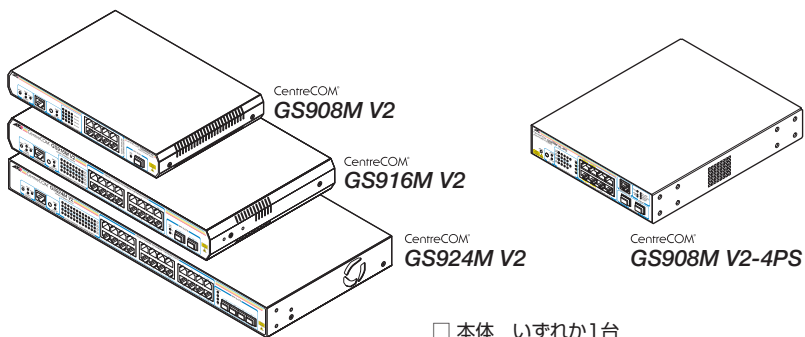
1

お使いになる前に

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明します。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。



- 電源ケーブル(1.8m) 1本
- ※ 同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。
- ※ 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。



- 電源ケーブル抜け防止フック 1個



- CentreCOM GS916M V2/GS924M V2のみ
 19インチラック-mountキット 1式



- 使用しているソフトウェアについて 1冊
 製品仕様書(英文) 1枚
 取扱説明書(本書) 1冊



- ソフトウェア使用権許諾契約書 1部
 製品保証書 1枚
 シリアル番号シール 2枚

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1.2 概要

本製品のハードウェア的な特長とオプション（別売）製品を紹介します。オプション製品のリリース時期については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

特長

- (GS908M V2) 10/100/1000BASE-Tポートを8ポート、SFPスロットを1スロット装備
- (GS908M V2-4PS) 10/100/1000BASE-Tポートを8ポート、SFPスロットを2スロット装備。10/100/1000BASE-Tポートのうち4ポートはPoEポート
- (GS916M V2/GS924M V2) 10/100/1000BASE-Tポートを16/24ポート、SFPスロットを2/4スロット装備。SFPポートは10/100/1000BASE-Tポートのうち2/4ポートと共用
- 動作時温度を50℃まで保証（ただし、GS908M V2/GS924M V2でAT-SPLX40、AT-SPZX80、AT-SPBD80-A/AT-SPBD80-B使用時は45℃まで）
- 同梱のフックで電源ケーブルの抜けを防止
- (GS916M V2/GS924M V2) 同梱の19インチラックマウントキットでEIA標準の19インチラックに取り付け可能
- CLI/GUIで、ユーザーが指定した期間ポートのLEDを消灯させる、ポートをシャットダウンさせる、本体の電源をスタンバイ状態にさせる設定が可能（エコトリガー機能）
- 本体前面の切替スイッチまたはCLI/GUIで、ポートのLEDを消灯させる設定が可能（エコLED機能）

オプション（別売）

GS908M V2

- SFPモジュールによりポートの拡張が可能
 - AT-SPSX 1000BASE-SX (2連LC)
 - AT-SPSX2 1000M MMF (2km) (2連LC)
 - AT-SPLX10 1000BASE-LX (2連LC)
 - AT-SPLX40 1000M SMF (40km) (2連LC)
 - AT-SPZX80 1000M SMF (80km) (2連LC)
 - AT-SPBD10-A/AT-SPBD10-B 1000BASE-BX10 (LC)
 - AT-SPBD20-A/AT-SPBD20-B 1000M SMF (20km) (LC)
 - AT-SPBD80-A/AT-SPBD80-B 1000M SMF (80km) (LC)
 - AT-SPBDM-A/AT-SPBDM-B 1000M MMF (550m) (LC)
 - AT-MG8T 1000BASE-T (RJ-45)

※ AT-MG8Tによる10/100Mbps通信は未サポートです。

1.2 概要

- 壁設置ブラケットで壁面への取り付けが可能
AT-BRKT-J23
- 壁設置用磁石でスチール面への取り付けが可能
マグネットKit M
- 19インチラックマウントキットでEIA規格の19インチラックに取り付け可能
AT-RKMT-J05
- 専用のコンソールケーブルキットでコンソールのシリアルポート、USBポートと接続
CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用のRJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブルでコンソールと接続
CentreCOM VT-Kit2
※ コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」が必要です。
- L字型コネクタ電源ケーブルにより、奥行きをとらずに設置可能
AT-PWRCBL-J01L/AT-PWRCBL-J01R

GS908M V2-4PS

- SFPモジュールによりポートの拡張が可能
AT-SPFX/2 100BASE-FX (2km) (2連LC)
AT-SPSX 1000BASE-SX (2連LC)
AT-SPSX2 1000M MMF (2km) (2連LC)
AT-SPLX10 1000BASE-LX (2連LC)
AT-MG8T 1000BASE-T (RJ-45)
※ AT-MG8Tによる10/100Mbps通信は未サポートです。
- 壁設置ブラケットで壁面への取り付けが可能
AT-BRKT-J24
- 壁設置用磁石でスチール面への取り付けが可能
マグネットKit XS
- 19インチラックマウントキットでEIA規格の19インチラックに取り付け可能
AT-RKMT-J14
- 専用のコンソールケーブルキットでコンソールのシリアルポート、USBポートと接続
CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用のRJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブルでコンソールと接続
CentreCOM VT-Kit2
※ コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」が必要です。
- L字型コネクタ電源ケーブルにより、奥行きをとらずに設置可能
AT-PWRCBL-J01L

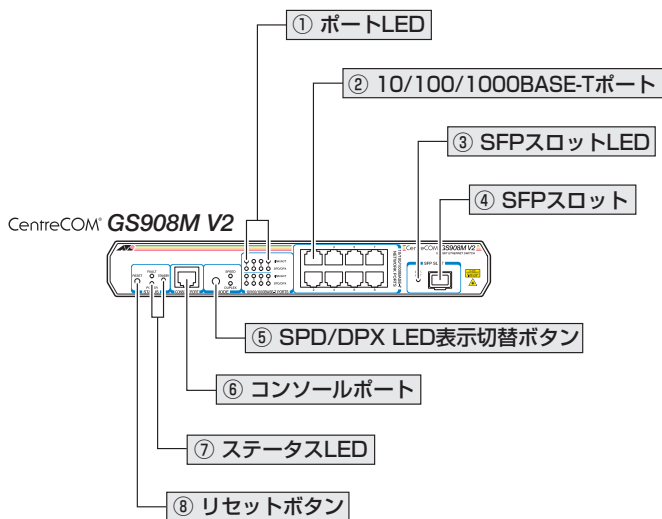
GS916M V2 / GS924M V2

- SFP モジュールによりポートの拡張が可能
 - AT-SPFX/2 100BASE-FX (2km) (2連LC)
 - AT-SPFX/15 100BASE-FX (15km) (2連LC)
 - AT-SPFXBD-LC-13/AT-SPFXBD-LC-15
100BASE-BX (15km) (LC)
 - AT-SPSX 1000BASE-SX (2連LC)
 - AT-SPSX2 1000M MMF (2km) (2連LC)
 - AT-SPLX10 1000BASE-LX (2連LC)
 - AT-SPLX40 1000M SMF (40km) (2連LC)
 - AT-SPZX80 1000M SMF (80km) (2連LC)
 - AT-SPBD10-A/AT-SPBD10-B 1000BASE-BX10 (LC)
 - AT-SPBD20-A/AT-SPBD20-B 1000M SMF (20km) (LC)
 - AT-SPBD80-A/AT-SPBD80-B 1000M SMF (80km) (LC)
 - AT-SPBDM-A/AT-SPBDM-B 1000M MMF (550m) (LC)
- 壁設置ブラケットで壁面への取り付けが可能
AT-BRKT-J22
- 壁設置用磁石でスチール面への取り付けが可能
マグネットKit XS
- 専用のコンソールケーブルキットでコンソールのシリアルポート、USBポートと接続
CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用のRJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブルでコンソールと接続
CentreCOM VT-Kit2
※ コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」が必要です。
- L字型コネクタ電源ケーブルにより、奥行きをとらずに設置可能
AT-PWRCBL-J01L/AT-PWRCBL-J01R

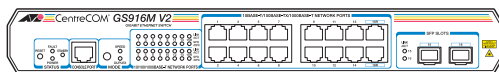
1.3 各部の名称と働き

GS908M V2 / GS916M V2 / GS924M V2

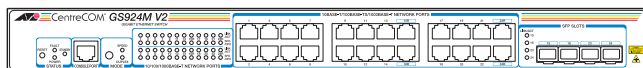
前面



CentreCOM GS916M V2



CentreCOM GS924M V2



① ポートLED

10/100/1000BASE-Tポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。ポートLEDは、SPD/DPX LED表示切替ボタンまたはCLI/GUIによって点灯させないように設定することもできます(エコLED機能)。


○ LINK/ACT (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

○ SPD/DPX (Speed/Duplex)

通信速度 (10・100/1000Mbps)、またはデュプレックス (Half/Full Duplex) のどちらかの状態を表示します。

SPD/DPX LED でどちらの状態を表示するかは SPD/DPX LED 表示切替ボタンで選択します。

 26 ページ「LED 表示」

② 10/100/1000BASE-T ポート

UTP ケーブルを接続するコネクタ (RJ-45) です。

ケーブルは 10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上、1000BASE-T の場合はエンハンスド・カテゴリ 5 の UTP ケーブルを使用します。接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。



(GS916M V2/GS924M V2) GS916M V2 のポート 15R, 16R, GS924M V2 のポート 15R, 16R, 23R, 24R は SFP ポートとのコンボポートです (どちらか一方が使用可能です)。

デフォルトでは、10/100/1000BASE-T ポートと SFP ポートが同時に接続されている場合 (両方リンク可能な状態にある場合)、SFP ポートが優先的にリンクするよう設定されています (FIBERAUTO)。同時接続時、SFP ポートのリンクがダウンした場合は自動的に 10/100/1000BASE-T ポートにリンクが切り替わります。

SET SWITCH PORT コマンドで、コンボポートの冗長設定を変更することもできます。


③ SFP スロット LED

SFP ポートと接続先の機器の通信状況を表示する LED ランプです。

SFP スロット LED は、SPD/DPX LED 表示切替ボタンまたは CLI/GUI によって点灯させないように設定することもできます (エコ LED 機能)。

○ LINK/ACT (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

 26 ページ「LED 表示」

④ SFP スロット

オプション (別売) の SFP モジュール (以下、SFP と省略します) を装着するスロットです。ご購入時には、ダストカバーが取り付けられています。ダストカバーは、SFP を装着するとき以外、はずさないようにしてください。



(GS916M V2/GS924M V2) SFP ポートは 10/100/1000BASE-T ポートとのコンボポートです (どちらか一方が使用可能です)。

デフォルトでは、10/100/1000BASE-T ポートと SFP ポートが同時に接続されている場合 (両方リンク可能な状態にある場合)、SFP ポートが優先的にリンクするよう設定されています (FIBERAUTO)。同時接続時、SFP ポートのリンクがダウンした場合は自動的に 10/100/1000BASE-T ポートにリンクが切り替わります。

SET SWITCH PORT コマンドで、コンボポートの冗長設定を変更することもできます。

1.3 各部の名称と働き

⑤ SPD/DPX LED表示切替ボタン

SPD/DPX LEDの表示内容を切り替えるボタンです。また、省エネ機能として、LEDを点灯させないように設定することもできます(エコLED機能)。

ボタンを押すと、SPEED表示、DUPLEX表示、LED消灯モードの順に設定が切り替わります。本製品起動時にはSPEEDが選択されています。


SPD/DPX LEDでどちらの状態が表示されているかは、SPD/DPX LED表示切替ボタンの右にあるSPEEDとDUPLEXの各LEDで表示します。

LED消灯モードに設定すると、ステータスLEDを除く全LEDが消灯します。



ヒント

CLI/GUIからも、SPD/DPX LED表示切替ボタンによる設定と同様の設定ができます。

 [26ページ「LED表示」](#)

⑥ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ (RJ-45) です。

ケーブルはオプション (別売) のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。

 [44ページ「コンソールを接続する」](#)

⑦ ステータスLED

本製品全体の状態を表示するLEDランプです。

○ FAULT


本製品の異常を表します。

○ POWER

本製品の電源供給状態を表します。

○ STANDBY

CLI/GUIからのエコトリガー機能の設定によって、本製品の電源がスタンバイ状態になっていることを表します。

 [26ページ「LED表示」](#)

⑧ リセットボタン

本製品を再起動するためのボタンです。

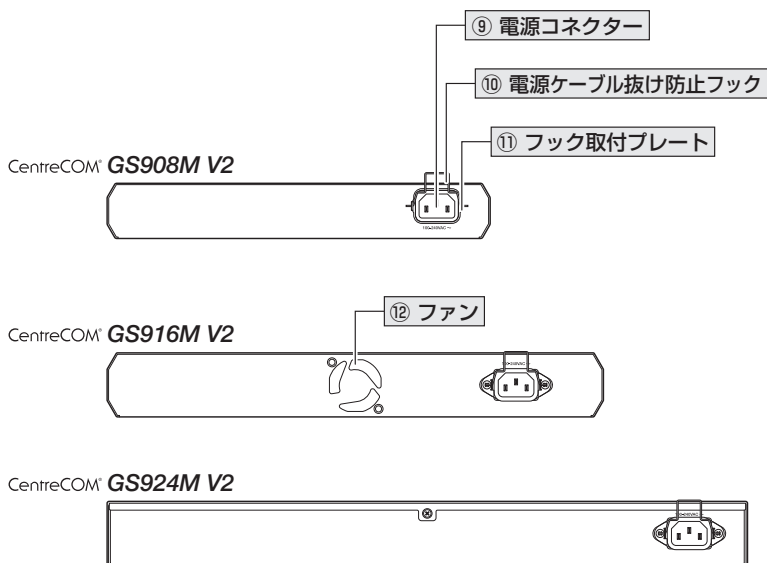
先の細い棒などでリセットボタンを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされません。



注意

鋭利なもの (縫い針など) や通電性のあるもので、リセットボタンを押さないでください。

背面



⑨ 電源コネクター

AC電源ケーブルを接続するコネクターです。

同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

 参照 46ページ「電源ケーブルを接続する」

⑩ 電源ケーブル抜け防止フック

電源ケーブルの抜け落ちを防止する金具です。

ご購入時には、フックは取りはずされた状態で同梱されています。

 参照 46ページ「電源ケーブルを接続する」

⑪ フック取付プレート

電源ケーブル抜け防止フックを取り付けるプレートです。

 参照 46ページ「電源ケーブルを接続する」

⑫ ファン

本製品内部の熱を逃すためのファンです。

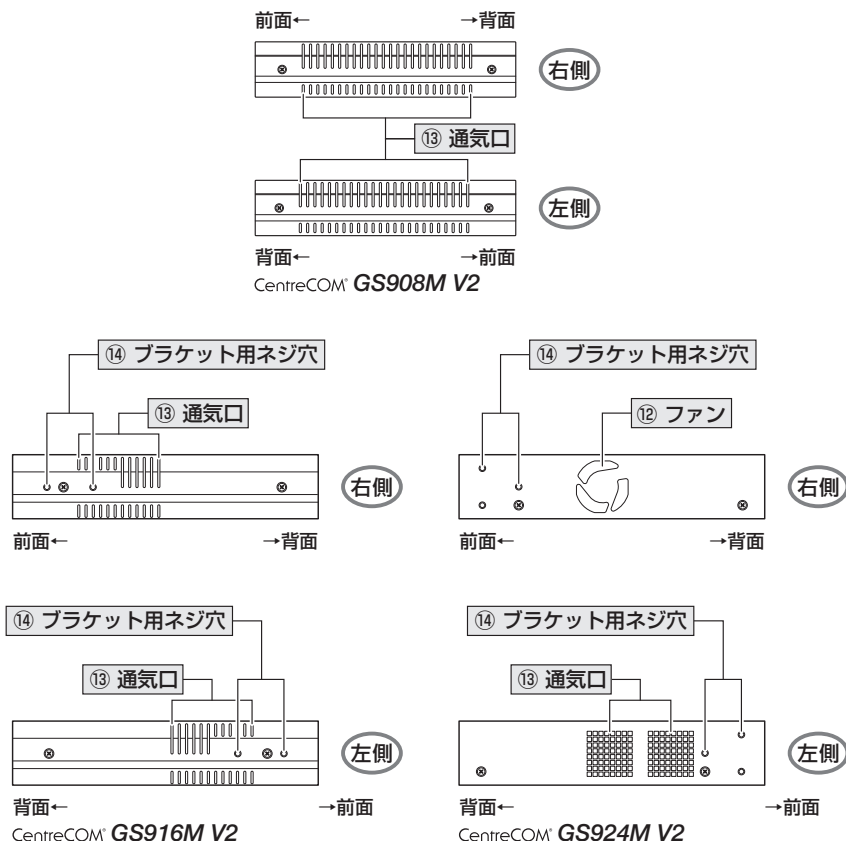


ファンをふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

1.3 各部の名称と働き

側面



⑬ 通気口

本製品内部の熱を逃すための穴です。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

⑭ ブラケット用ネジ穴

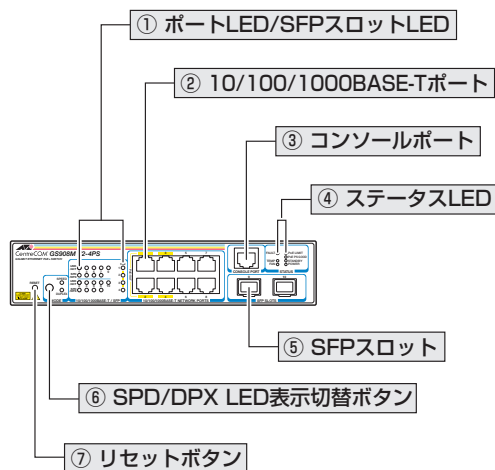
19インチラックマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。

参照 34ページ「19インチラックに取り付ける」

参照 36ページ「オプションを利用して設置する」

GS908M V2-4PS

前面



① ポートLED/SFPスロットLED

10/100/1000BASE-TポートおよびSFPポートと、接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

ポートLED/SFPスロットLEDは、SPD/DPX LED表示切替ボタンまたはCLI/GUIによって点灯させないように設定することもできます(エコLED機能)。

○ LINK/ACT (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。


○ SPD/DPX (Speed/Duplex) : ポート1～8のみ

通信速度(10・100/1000Mbps)、またはデュプレックス(Half/Full Duplex)のどちらかの状態を表示します。

SPD/DPX LEDでどちらの状態を表示するかはSPD/DPX LED表示切替ボタンで選択します。

○ PoE : ポート1～4のみ

PoE電源の供給状態を表します。

 26ページ「LED表示」

1.3 各部の名称と働き

② 10/100/1000BASE-Tポート

UTPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。ポート1～4はPoE給電機能に対応しています。

ポート1～4でPoE受電機器を接続する場合は、カテゴリ5以上のUTPケーブルを使用してください。

PoE非対応の機器接続時は、10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ5以上のUTPケーブルを使用します。

接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

③ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ケーブルはオプション（別売）のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。

 44ページ「コンソールを接続する」

④ ステータスLED

本製品全体の状態を表示するLEDランプです。

○ FAULT

本製品の異常を表します。

○ TEMP

内部温度の異常を表します。

○ FAN

ファンの異常を表します。

○ PoE LIMIT

PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回っているかどうかを表します。

○ PoE PS GOOD


PoE電源の状態を表します。

○ STANDBY

CLI/GUIからのエコトリガー機能の設定によって、本製品の電源がスタンバイ状態になっていることを表します。

○ POWER

本製品の電源供給状態を表します。

 26ページ「LED表示」

⑤ SFPスロット

オプション(別売)のSFPモジュール(以下、SFPと省略します)を装着するスロットです。ご購入時には、ダストカバーが取り付けられています。ダストカバーは、SFPを装着するとき以外、はずさないようにしてください。

⑥ SPD/DPX LED表示切替ボタン

SPD/DPX LEDの表示内容を切り替えるボタンです。また、省エネ機能として、LEDを点灯させないように設定することもできます(エコLED機能)。

ボタンを押すと、SPEED表示、DUPLEX表示、LED消灯モードの順に設定が切り替わります。本製品起動時にはSPEEDが選択されています。


SPD/DPX LEDでどちらの状態が表示されているかは、SPD/DPX LED表示切替ボタンの右にあるSPEEDとDUPLEXの各LEDで表示します。

LED消灯モードに設定すると、ステータスLEDを除く全LEDが消灯します。



CLI/GUIからも、SPD/DPX LED表示切替ボタンによる設定と同様の設定ができます。

ヒント

 参照 26ページ「LED表示」

⑦ リセットボタン

本製品を再起動するためのボタンです。

先の細い棒などでリセットボタンを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされます。

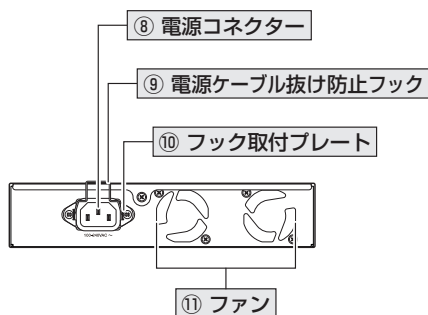


鋭利なもの(縫い針など)や通電性のあるもので、リセットボタンを押さないでください。

注意

1.3 各部の名称と働き

背面



⑧ 電源コネクタ

AC電源ケーブルを接続するコネクタです。

同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

参照 46ページ「電源ケーブルを接続する」

⑨ 電源ケーブル抜け防止フック

電源ケーブルの抜け落ちを防止する金具です。

ご購入時には、フックは取りはずされた状態で同梱されています。

参照 46ページ「電源ケーブルを接続する」

⑩ フック取付プレート

電源ケーブル抜け防止フックを取り付けるプレートです。

参照 46ページ「電源ケーブルを接続する」

⑪ ファン

本製品内部の熱を逃すためのファンです。

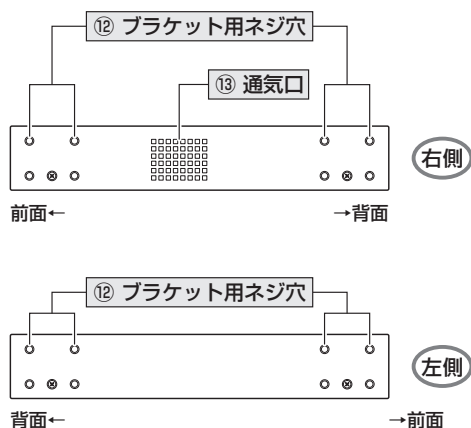
背面から見て左側がファン1 (FAN1)、右側がファン2 (FAN2) になります (SHOW SYSTEMコマンドで各ファンの状態が監視できます)。



ファンをふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

側面



⑫ ブラケット用ネジ穴

19インチラックマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。

 **参照** 36ページ「オプションを利用して設置する」

⑬ 通気口

本製品内部の熱を逃すための穴です。



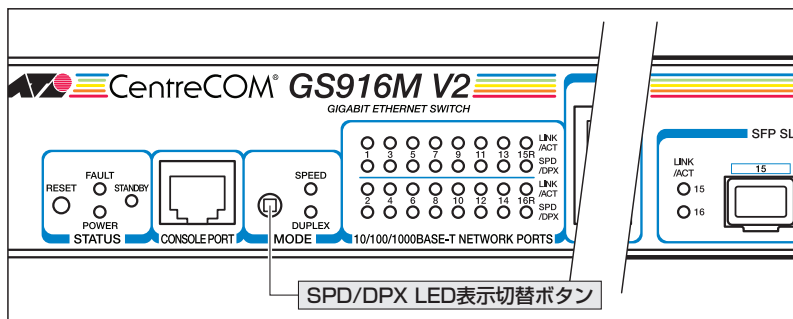
通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

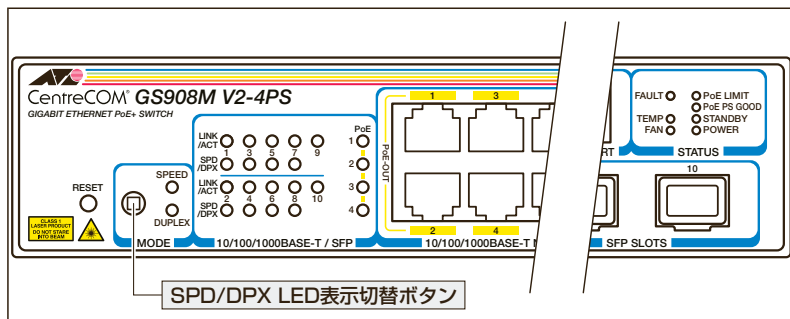
1.4 LED表示


本体前面には、本製品全体や各ポートの状態を示すLEDが付いています。


○ GS916M V2前面図



○ GS908M V2-4PS前面図



 **ヒント** 本体前面SPD/DPX LED表示切替ボタンまたはCLI/GUIの設定で、LEDを消灯モードにすることができます。CLI/GUIによる設定方法については、コマンドリファレンスを参照してください。

 **参照** コマンドリファレンス / 省エネ機能

 **参照** コマンドリファレンス / Web GUI / システム設定

ただし、ステータスLED(下記のLED)については、LED消灯モード時でも点灯(点滅)します。

- ・ POWER
- ・ FAULT
- ・ STANDBY
- ・ TEMP (GS908M V2-4PSのみ)
- ・ FAN (GS908M V2-4PSのみ)
- ・ PoE LIMIT (GS908M V2-4PSのみ)
- ・ PoE PS GOOD (GS908M V2-4PSのみ)

ポート LED

10/100/1000BASE-T ポートの状態を表します。

LED		色	状態	表示内容
LINK/ACT		緑	点灯	リンクが確立しています。
			点滅	パケットを送受信しています。
		—	消灯	リンクが確立していません。 SPD/DPX LED 表示切替ボタンまたは CLI/GUI によって LED 消灯モードに設定されています。
SPD/DPX	SPEED	緑	点灯	1000Mbps でリンクが確立しています。
		—	消灯	10/100Mbps でリンクが確立しています。またはリンクが確立していません。 SPD/DPX LED 表示切替ボタンまたは CLI/GUI によって LED 消灯モードに設定されています。
	DUPLEX	緑	点灯	Full Duplex でリンクが確立しています。
		—	消灯	Half Duplex でリンクが確立しています。またはリンクが確立していません。 SPD/DPX LED 表示切替ボタンまたは CLI/GUI によって LED 消灯モードに設定されています。
GS908M V2-4PS のみ				
PoE		緑	点灯	受電機器に PoE 電源を供給しています。
			点滅	以下の理由により、本ポートへの給電が停止しました。 - PoE 電源の電力使用量が最大供給電力を上回ったため - ポートの出力電力が設定された上限値を上回ったため - 本製品に内部異常が発生したため
		—	消灯	受電機器に PoE 電源が供給されていません。 SPD/DPX LED 表示切替ボタンまたは CLI/GUI によって LED 消灯モードに設定されています。

SPD/DPX LED で SPEED と DUPLEX のどちらの状態が表示されているかは、SPD/DPX LED 表示切替ボタンの横にある SPEED と DUPLEX の各 LED で表します。SPD/DPX LED 表示切替ボタンで LED 消灯モードを選択している場合は、どちらの LED も点灯しません。

LED	色	状態	表示内容
SPEED	緑	点灯	SPEED が選択されています。 SPD/DPX LED で通信速度 (SPEED) を表示します。
	—	消灯	SPEED は選択されていません (DUPLEX または LED 消灯モードが選択されています)。
DUPLEX	緑	点灯	DUPLEX が選択されています。 SPD/DPX LED でデュプレックス (DUPLEX) を表示します。
	—	消灯	DUPLEX は選択されていません (SPEED または LED 消灯モードが選択されています)。

1.4 LED 表示

SFP スロット LED

SFP ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
LINK/ACT	緑	点灯	SFP を介してリンクが確立しています。
		点滅	SFP を介してパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
		消灯	SPD/DPX LED 表示切替ボタンまたは CLI/GUI によって LED 消灯モードに設定されています。

ステータス LED

本製品全体の状態を表します。

GS908M V2 / GS916M V2 / GS924M V2

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本製品のシステムに異常があります。
		1 回点滅	本製品起動中、ファームウェアダウンロード中、またはフラッシュメモリーに書き込み中です。 ^{*1}
			本製品のファンに異常があります。 ^{*2}
			本製品の電圧に異常があります。 ^{*3}
	6 回点滅	本製品の内部温度に異常があります。 ^{*3}	
—	消灯	本製品に異常はありません。	
POWER	緑	点灯	本製品に電源が供給されています。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。
STANDBY	緑	点灯	CLI/GUI からのエコトリガー機能の設定によって、本製品の電源がスタンバイ状態です。
	—	消灯	本製品の電源はスタンバイ状態ではありません。

*1 約 1 秒の点灯と約 1 秒の消灯を繰り返します。ただし、本製品起動中は速い点滅になります。

*2 点滅と点滅の間に約 2 秒間の消灯時間があります。

*3 3 回/6 回の速い点滅の後、約 2 秒間の消灯時間があります。

GS908M V2-4PS

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本製品のシステムに異常があります。
		1回点滅	本製品起動中、ファームウェアダウンロード中、またはフラッシュメモリーに書き込み中です。 ^{※1}
	—	3回点滅	本製品の電圧に異常があります。 ^{※2}
TEMP	—	消灯	本製品のシステム、電圧に異常はありません。
	緑	点灯	本製品の内部温度に異常はありません。
FAN	赤	点滅	本製品の内部温度に異常があります。
	緑	点灯	本製品のファンに異常はありません。
POWER	赤	点滅	本製品のファンに異常があります。
	緑	点灯	本製品に電源が供給されています。
STANDBY	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。
	緑	点灯	CLI/GUIからのエコトリガー機能の設定によって、本製品の電源がスタンバイ状態です。
PoE LIMIT	緑	点灯	PoE電源の電力使用量が、最大供給電力からガードバンドを差し引いた値を上回っています。新たに受電機器を接続しても給電がされません。
		点滅	PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回っています。優先順位の低いポートへの給電が停止しています。
	—	消灯	PoE電源の電力使用量に異常はありません。
PoE PS GOOD	緑	点灯	PoE電源の出力電圧に異常はありません。
	—	消灯	PoE電源の出力電圧に異常が発生しています。

※1 約1秒の点灯と約1秒の消灯を繰り返します。ただし、本製品起動中は速い点滅になりません。

※2 3回の速い点滅の後、約2秒間の消灯時間があります。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

- ゴム足による水平方向の設置
本製品を卓上や棚などの水平な場所に設置する場合は、底面のゴム足を使用して設置してください。ゴム足は、本製品への衝撃を吸収したり、本製品の滑りや設置面の傷つきを防止したりします。
- ラックマウントキットによる19インチラックへの設置
- 壁設置ブラケットによる壁面への設置
- 壁設置用磁石によるスチール面への設置



警告

弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災や故障の原因となります。



警告

水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合にはただちに使用をやめ、弊社サポートセンターにご連絡ください。



注意

電源部が下向きになる方向で設置する場合には、必ず、同梱の電源ケーブル抜け防止フックを使用し、電源ケーブルを固定してください。



注意

製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守をはじめの前に、必ず4ページの「安全のために」をよくお読みください。

設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手(体)でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。

2.2 19 インチラックに取り付ける

GS916M V2/GS924M V2は同梱の19 インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

必ず下図の○の方向に設置してください。

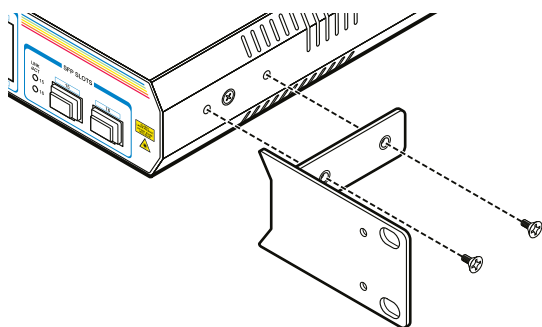


警告 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

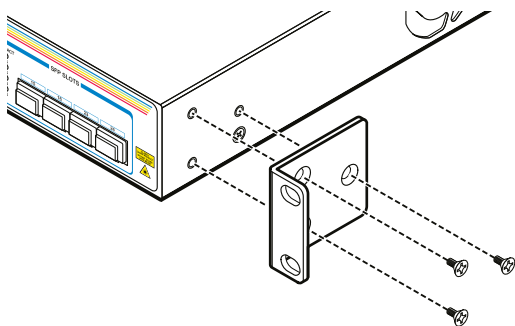
警告 ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

警告 本製品を19インチラックへ取り付けの際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

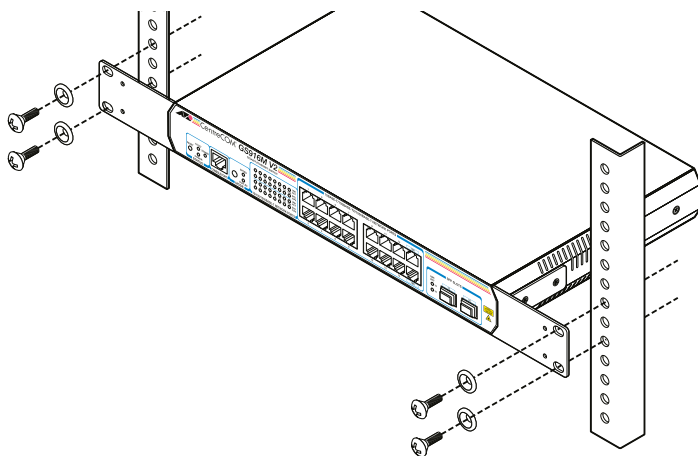
- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 ドライバーなどを使用して、本体底面の四隅にリベットで留められているゴム足ははずします。
- 3 同梱のブラケット用ネジを使用して、本体両側面にブラケットを取り付けます。
(GS916M V2)片側に2個のネジを使用します。



(GS924M V2) 片側に2個のネジを使用します。



- 4 ラックに付属のネジを使用して、19 インチラックに本製品を取り付けます (下図は GS916M V2)



2.3 オプションを利用して設置する

本製品は以下のオプション（別売）を使用してEIA規格の19インチラックや壁面に取り付けることができます。

取り付け方法については、各オプションに付属の取扱説明書を参照してください。

GS908M V2

- 19インチラックマウントキット「AT-RKMT-J05」を使用して19インチラックに取り付ける
- 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J23」を使用して壁面に取り付ける
- 壁設置用磁石「マグネットKit M」を使用してスチール面に取り付ける

GS908M V2-4PS

- 19インチラックマウントキット「AT-RKMT-J14」を使用して19インチラックに取り付ける
- 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J24」を使用して壁面に取り付ける
- 壁設置用磁石「マグネットKit XS」を使用してスチール面に取り付ける

GS916M V2 / GS924M V2

- 壁設置ブラケット「AT-BRKT-J22」を使用して壁面に取り付ける
- 壁設置用磁石「マグネットKit XS」を使用してスチール面に取り付ける

19インチラックマウントキットを使用する場合


必ず下図の○の方向に設置してください。


GS908M V2 (AT-RKMT-J05)




GS908M V2-4PS (AT-RKMT-J14)



 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

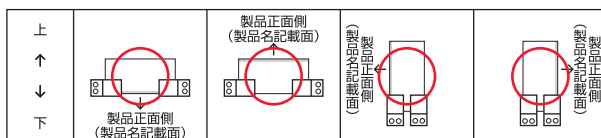
 本製品をオプションの19インチラックマウントキットを使用して19インチラックに取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。
固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

 本製品へのラックマウントキットの取り付けは、ラックマウントキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

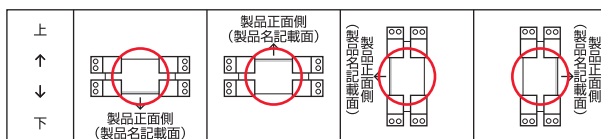
壁設置ブラケットを使用する場合

必ず下図の○の方向に設置してください。

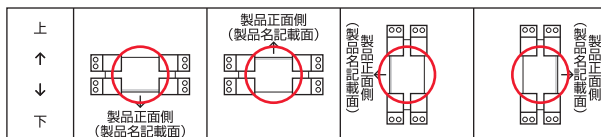
GS908M V2 (AT-BRKT-J23)






GS908M V2-4PS (AT-BRKT-J24)




GS916M V2 / GS924M V2 (AT-BRKT-J22)



-  壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。
-  壁設置ブラケットを使用する際は、本製品からゴム足をはずした状態で設置してください。

 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

 壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

2.3 オプションを利用して設置する

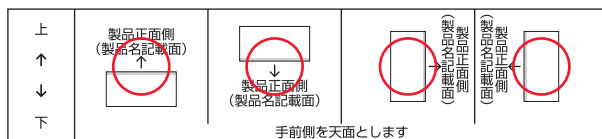
壁設置用磁石を使用する場合

必ず下図の○の方向に設置してください。

GS908M V2 (マグネットKit M)



GS908M V2-4PS / GS916M V2 / GS924M V2 (マグネットKit XS)



注意 設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。



必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。



マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。けがや機器破損の原因となる恐れがあります。



本製品へのマグネットの取り付けは、マグネットKitの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

2.4 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用します。

UTPケーブルのタイプ

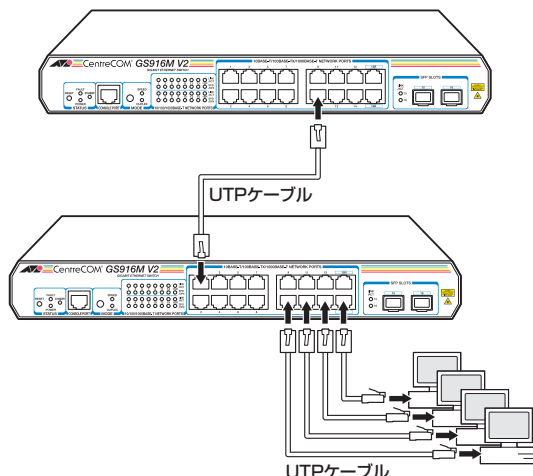
通信モードがオートネゴシエーションの場合、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

MDI/MDI-X自動切替を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーション無効の固定設定にする場合は、MDIまたはMDI-Xのどちらかに設定する必要があります (デフォルトはMDI-X)。接続先のポートがMDIの場合は本製品のポートをMDI-Xに、接続先のポートがMDI-Xの場合は本製品のポートをMDIに設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

なお、SFPの1000BASE-Tポートで、MDI/MDI-X自動切替を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーション以外に設定にすることはできません。

UTPケーブルの長さ

本製品とネットワーク機器を接続するケーブルの長さは100m以内にしてください。



2.5 PoE 対応の受電機器を接続する

GS908M V2-4PSにPoE対応の受電機器を接続します。

本製品はクラス4受電機器への給電が可能なIEEE 802.3atに対応しています。給電方式はケーブルの信号線(1,2,3,6)を使用して給電を行うオルタナティブAを採用しています。

本製品のPoE給電仕様

GS908M V2-4PSのPoE給電機能は、デフォルトですべてのPoEポート(ポート1~4)で有効になっています。接続された受電機器の検出、電力クラスの識別を自動的にを行い、必要に応じて給電を開始します。

接続された機器が受電機器ではなく通常のイーサネット機器だった場合は、給電を行わず通常の10/100/1000BASE-Tポートとして動作します。

1ポートあたりの最大供給電力は30W、装置全体の最大供給電力は75Wです。

IEEE 802.3atで規定されている電力クラス分けと、本製品が同時に給電可能なポートの最大数については、下表をご覧ください。

クラス	受電機器の電力(最大)	給電機器の電力	同時に給電可能なポートの最大数
0	13.0 W	15.4 W	4
1	3.84 W	4.0 W	4
2	6.49 W	7.0 W	4
3	13.0 W	15.4 W	4
4	25.5 W	30.0W	2*

※ 受電機器の電力使用量やポートの出力電力の設定によっては、3ポート以上同時に給電が可能です。



以下の説明では、ファームウェアでの設定・表示項目にCLIを使用しますが、GUIでも同様の設定・表示が可能です。



電力クラスは、SHOW POEコマンドの「Class」やSHOW POE PORTコマンドの「Power Class」で確認できます。

最大供給電力

GS908M V2-4PSに搭載されているPoE用電源の最大供給電力は75Wです。

PoE電源の電力使用量(総量)がこの値を上回った場合は、給電中のポートのうち、もっとも優先度の低いポートへの給電を停止します。

CLIでは最大供給電力を「PoE Limit」、PoE電源の電力使用量を「Total Allocated Power」と表します。

ガードバンド

不意の給電停止を避けるため、PoE電源の最大供給電力にはガードバンドと呼ばれるマージンが設けられています。ガードバンドはCLIのSET POE GUARDBANDコマンドで変更が可能で、デフォルトでは10Wに設定されています。

PoE電源の電力使用量（総量）が、最大供給電力からガードバンドを差し引いた値を上回った場合は、新たに受電機器を接続しても給電がされません（すでに接続されている受電機器への給電は継続します）。

たとえば、ガードバンドが10Wに設定されている場合、 $75W - 10W = 65W$ で、PoE電源の電力使用量が65Wを上回っていると、新たに接続する受電機器の電力使用量が10W未満であっても、給電が拒否されます。

CLIではガードバンドは「Guard Band」、新たな受電機器への給電が拒否されるしきい値を「PoE No Connect」と表します。

電力管理モード

GS908M V2-4PSでは、Classモード（CLASS）とActualモード（ACTUAL）という2つの電力管理方法が採用されています。どちらのモードで電力を管理するかはSET POE MANAGEMENTコマンドで選択します。デフォルトではActualモードに設定されています。

○ Classモード

IEEE 802.3atで規定されている電力クラス情報にもとづいて給電制御を行います。たとえば、接続された受電機器がクラス1だった場合、受電機器が実際に使用する電力量に関係なく、4W分の電力が接続ポートに割り当てられます（最大4Wまでの出力に対応できるように、最大供給電力のうち4W分をあらかじめ確保するという意味です）。

電力の割り当ては、電力クラスにもとづいて自動的に行う方法以外に、CLIコマンドを使用してポートごとに手動で設定することも可能です。指定したポートの電力を予約しておくようなもので、受電機器が実際に接続された時点で、接続ポートに設定値分の電力が割り当てられます。3000～30000mWの範囲で任意の上限を設けることができるので、たとえば、実際の電力使用量が8Wのクラス3受電機器が接続された場合、クラス分けによる電力の割り当てでは、接続ポートには自動的に15.4Wの電力が割り当てられますが、手動の場合は10Wにするなど、より細やかな電力の割り振りが可能です。

ポートに割り当てる電力を予約する（ポートの出力電力に上限値を設ける）には、SET POE PORTコマンドにPOWERLIMITパラメーターを指定して行います。

CLIでは、接続ポートに割り当てられた電力の合計値＝PoE電源の電力使用量は「Total Allocated Power」、受電機器の実際の電力使用量（合計値）は「Consumed Power」と表します。

2.5 PoE 対応の受電機器を接続する

○ Actualモード

受電機器が接続されたポートに対して、受電機器が必要とする分だけ電力を供給します。Actualモードでは、受電機器の電力クラスを識別はしますが、各クラスにおける最大出力電力をあらかじめ確保するといった給電制御には使用せず、受電機器が実際に使用する電力量に応じて給電を行います。

SET POE PORT コマンドの POWERLIMIT パラメーターで設定された上限値に達するまで給電が行われるので、たとえば、クラス1受電機器の電力使用量がなんらかの理由で4Wを超えても、上限値に達していなければ給電は停止されません。なお、クラス0～3の場合は、IEEE 802.3afの規定にもとづき15.4Wよりも大きい値を上限値にすることはできません。SET POE PORT コマンドで15.4Wよりも大きい値に設定されていても、受電機器がクラス0～3の場合、電力使用量が15.4Wを超えると給電は停止されます。

Actualモードは必要な分だけ電力を供給するため、PoE電源の電力を無駄なく使うことができますが、不意の給電停止を避けるため、ケーブルでの内部損失分や受電機器の電力使用量の変動を考慮して、電力の見積もりを行う必要があります。

Actualモードの場合、接続ポートに割り当てられた電力の合計値「Total Allocated Power」と、受電機器の実際の電力使用量(合計値)は「Consumed Power」は同義で、同じ値を示します。

また、Actualモードでは、PoE電源の余剰電力が「Available Power」として表示され、これは最大供給電力からPoE電源の電力使用量(総量)を差し引いた値です。

給電の優先順位

SET POE PORT コマンドの PRIORITY パラメーターで、ポートごとに給電優先度を LOW(低)、HIGH(高)、CRITICAL(最高)の3段階で設定できます。

PoE電源の電力使用量(総量)が最大供給電力を上回った場合は、給電中のポートのうち、もっとも優先順位の低いポートへの給電を停止します。

デフォルトでは、すべてのポートで給電優先度が「LOW」に設定されています。給電優先度の同じポート間では、ポート番号の小さいほうが優先順位が高くなります(ポート1がもっとも優先順位が高い)。

ポートからの出力電力の上限

前述のとおり、SET POE PORT コマンドの POWERLIMIT パラメーターで、ポートごとの最大出力電力を任意に設定することができます。なんらかの理由でポートからの出力電力が上限値を超えた場合は、給電優先順位に関係なく該当ポートへの給電が停止されます。

デフォルトでは、すべてのポートで上限値は30000mWに設定されています。

Class モードで POWERLIMIT パラメーター未設定時は、接続された受電機器の電力クラスにおける最大出力電力が上限となります。ポートからの出力電力が、クラス1受電機器の場合4W、クラス2受電機器の場合7W、クラス3受電機器の場合15.4W、クラス4受電機器の場合30Wを超えると、該当ポートへの給電を停止します。

POWERLIMIT パラメーター設定時は、接続された受電機器の電力クラスにおける最大出力電力よりも小さい値の場合、設定された上限値を超えると給電を停止します。

Actual モードの場合は、POWERLIMIT パラメーターで設定された上限値を超えるまで給電は継続されます。ただし、クラス0～3の場合は、IEEE 802.3af の規定にもとづき15.4W よりも大きい値を上限値にすることはできません。SET POE PORT コマンドで15.4W よりも大きい値に設定されていても、受電機器がクラス0～3の場合、電力使用量が15.4Wを超えると給電は停止されます。

受電機器の接続

PoE 受電機器を接続する場合は、カテゴリ5以上のUTPケーブルを使用してください。



ケーブルの予備線(4,5,7,8)を使用して給電を行うPoE対応機器にも対応できるように、8線結線のストレートタイプのUTPケーブルをお勧めします。



給電中のポートからケーブルを抜いた直後は電圧がかかっているため、ケーブルを抜き差しするなどして機器を接続しなおす場合は、2、3秒間を空けてください。再接続の間隔が極端に短いと本製品または接続機器の故障の原因となる恐れがあります。



本製品を給電機器(PSE)とカスケード接続する場合は、本製品のカスケードポートのPoE給電機能を無効に設定してください(カスケードポートを指定して、DISABLE POE PORT コマンドを実行します)。

2.6 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。本製品のコンソールポートはRJ-45コネクタです。弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用して、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポート（またはUSBポート）を接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用した接続以外は動作保証をいたしませんのでご注意ください。

コンソール

コンソールには、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232インターフェースを持つVT100互換端末を使用してください。



通信ソフトウェアの設定については、48ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

ケーブル

ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2をご使用ください。

○ CentreCOM VT-Kit2 plus: マネージメントケーブルキット

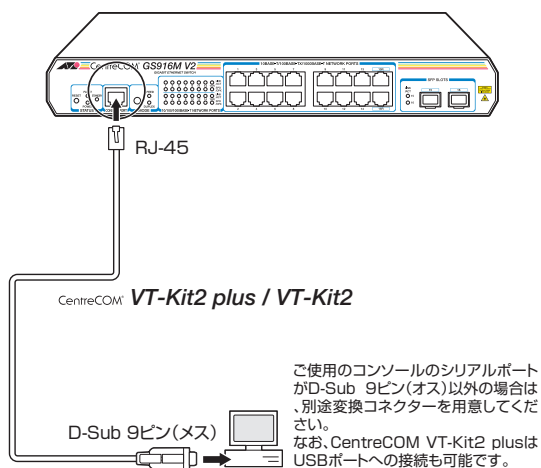
以下のコンソールケーブルが3本セットになっています。

- ・D-Sub 9ピン(オス)/D-Sub 9ピン(メス)
- ・RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)
- ・D-Sub 9ピン(オス)/USB

ご使用のコンソールのシリアルポート(D-Sub 9ピン)またはUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

○ CentreCOM VT-Kit2: RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブル

ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン(オス)以外の場合は、別途変換コネクタをご用意ください。



2.7 電源ケーブルを接続する

本製品は、電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

本製品では、次の電源ケーブルを使用できます。

- 同梱の電源ケーブル (AC100V用)
- オプション (別売) のL字型コネクター電源ケーブル (AC100V用)
背面スペースがかぎられた場所でも、奥行きをとらずに設置できます。

GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2:
AT-PWRCBL-J01L/AT-PWRCBL-J01R

GS908M V2-4PS:
AT-PWRCBL-J01L



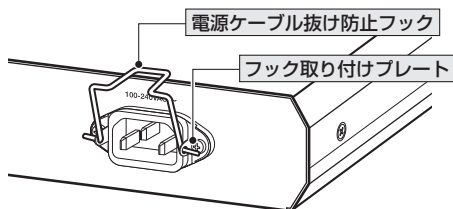
同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。



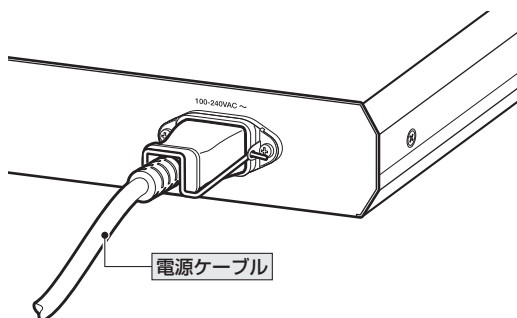
オプション (別売) のL字型コネクター電源ケーブルと同梱の電源ケーブル抜け防止フックは同時に使用できません (L字型コネクター電源ケーブルは、同梱の電源ケーブルに比べて抜けにくいケーブルです)。

- 1 同梱の電源ケーブル抜け防止フックを本体背面のフック取り付けプレートに取り付けます。

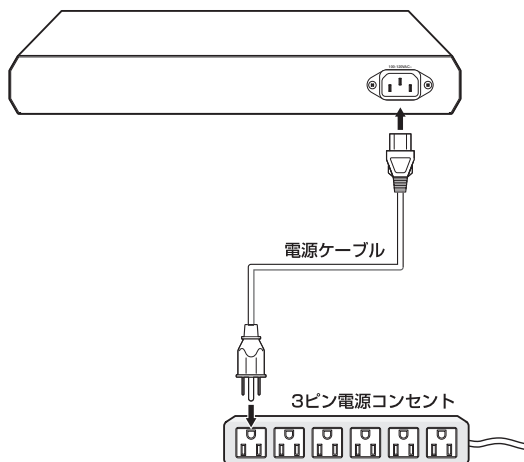


- 2 電源ケーブルを本体背面の電源コネクターに接続します。

- 3 電源ケーブル抜け防止フックで電源ケーブルが抜けないようにロックします。



- 4 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。



- 5 電源が入ると、本体前面のPOWER LED(緑)が点灯します。

電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

注意

2.8 設定の準備


コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、コンソールポートに接続したコンソール、またはネットワーク上のコンピューターからTelnetを使用して行います。

コンソールターミナル(通信ソフトウェア)に設定するパラメーターは次のとおりです。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし
エミュレーション	VT100
BackSpaceキーの送信方法	Ctrl + H
エンコード方法	シフト JIS (SJIS)


 通信ソフトウェアとして、Windows 2000/XPに標準装備のハイパーターミナルを使用する場合は、70ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。

 Telnetを使用する場合は、あらかじめローカルから本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。

 **参照** コマンドリファレンス / IP

 **参照** 72ページ「Telnetクライアントの設定」

本製品を起動する

- 1 コンピューター（コンソール）の電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。
- 2 本製品の電源を入れます。
 参照 46ページ「電源ケーブルを接続する」
- 3 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動します。また、起動時設定ファイルが指定されていれば、ここで読み込まれます。

```
Bootloader 1.1.1-atkk loaded

Reading flash:gs900mv2_v201.rel...

Verifying release... OK

Booting...
```

- 4 「login:」プロンプトが表示されます。

```
login:
```

2.9 操作の流れ

本製品に設定を行う際の操作の流れについて説明します。

設定方法についての詳細は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」をご覧ください。「コマンドリファレンス」の「運用・管理」で、システム関連の基本的な操作や設定方法について順を追って説明しています。初期導入時には、まずはじめに「運用・管理」を参照してください。

STEP 1 コンソールを接続する


コンソールケーブル (CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2) で、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポートを接続します。

 44ページ「コンソールを接続する」



STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 48ページ「コンソールターミナルを設定する」



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名は大文字・小文字を区別しません。パスワードは大文字・小文字を区別します。

login: manager …「manager」と入力して キーを押します。

Password: friend …「friend」と入力して キーを押します。

 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ログイン



STEP 4 設定を行う

コマンドラインインターフェースで、本製品に対して設定を行います。

Manager > …プロンプトの後にコマンドを入力します。

以下にコマンド入力例を示します。


○ ログインパスワードを変更する

ログイン後、パスワードを変更する。パスワードは「openENDS」。

```
Manager > set password    
Old password: friend   (現在のパスワードを入力。入力したパスワードは「*」で表示  
されます)
```

```
New password: openENDS   (新しいパスワードを入力)
```

```
Confirm      : openENDS   (確認のため、新しいパスワードをもう一度入力)
```

 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / パスワードの変更



○ システム名を設定する

システム名として「sales」を設定する。

```
Manager > set system name=sales [Enter]
Operation successful.
Manager sales>
```

コマンド実行とともに、コマンドプロンプトの先頭が「Manager」から「Manager sales」に変更されます。

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム名の設定

○ IPアドレスを設定する

vlan1にIPアドレス「192.168.1.10」、サブネットマスク「255.255.255.0」、ゲートウェイアドレス「192.168.1.32」を設定する。

```
Manager sales> add ip interface=1 ipaddress=192.168.1.10
gateway=192.168.1.32 [Enter]
```

参照 コマンドリファレンス / IP

○ システム時刻を設定する

```
Manager sales> set time=09:00:00 date=2010-09-08 [Enter]
System time is 2010-09-08 Wednesday at 09:00:00
```

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム時刻の設定

○ SNTPを利用して時刻を取得する

SNTPを有効にして、SNTPサーバーのIPアドレス「192.168.1.1」を指定する。

```
Manager sales> enable ntp [Enter]
Manager sales> add ntp peer=192.168.1.1 [Enter]
```

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / SNTP



STEP 5 設定を保存する

設定した内容を保存するため、設定スクリプトファイルを作成します。

```
Manager sales> create config=sample.cfg [Enter]
```

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / コンフィグレーション



STEP 6 起動時設定ファイルを指定する

保存した設定で本製品を起動させるため、起動時設定ファイルを指定します。

```
Manager sales> set config=sample.cfg [Enter]
```

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / コンフィグレーション



2.9 操作の流れ

STEP 7 ログアウトする

コマンドラインインターフェースでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
Manager > logoff 
```

LOGOFFのほかにLOGOUT、QUIT、EXIT、BYEも使用できます。



コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム

3

付 録

この章では、トラブル解決、オプションのSFPモジュールの取り付け方法、Web GUIの使用方法、WindowsのハイパーターミナルとTelnetアプリケーションの使用方法、本製品の仕様、保証とユーザーサポートについて説明しています。

3.1 困ったときに

本製品の使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

自己診断テストの結果を確認する

本製品は自己診断機能を備えています。起動時やSHOW SYSTEMコマンド実行時に自己診断テストを行い、異常の内容に応じて動作を制御します。

テスト結果は、SHOW SYSTEMコマンドで確認できます。


異常発生時には「Failed」または「Warning」が表示されますので、お問い合わせの前に確認してください。

- フラッシュメモリー
- RAM
- スイッチチップ
- UART
- PoE機能

- ファンの状態
- 電源ユニットの出力状態
- 本製品内部の温度状態

LED表示を確認する

LEDの状態を確認してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

 26ページ「LED表示」

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。SHOW LOGコマンドで、RAM上に保存されたメッセージを見ることができます。

```
Manager > show log [Enter]

Date      Time      Lv Message
-----
2009-05-28 13:44:34 6 Port 1: interface is up
2009-05-28 13:45:18 7 Switch startup, Ver 2.0.1 B05 May 20 2009, 16:50:31
2009-05-28 13:45:18 3 Spanning Tree initialized
2009-05-28 13:45:18 3 Spanning Tree State machine initialization succeeded
2009-05-28 13:45:18 6 Port 1: interface is up
2009-05-28 13:45:18 6 Port 2: interface is up
2009-05-28 13:45:20 3 User login on serial port
2009-05-28 13:46:28 6 Port 1: interface is down
2009-05-28 13:46:42 6 Port 3: interface is up
-----
```

ログレベル(Lv)とその内容です。

Lv	呼称	内容
7	CRITICAL	きわめて重大な障害が発生している
6	URGENT	緊急を要する情報。障害が発生し、システムの動作に影響を与える(与えた)可能性がある
5	IMPORTANT	管理者の注意を要する重要な情報。障害の可能性がある
4	NOTICE	管理者の注意を要する可能性がある情報
3	INFO	各種イベントの通知。通常運用を示すもので緊急性はない
2	DETAIL	詳細な情報。通常運用時には無視できるが、有効な情報を含む可能性がある
1	TRIVIAL	DETAILよりさらに詳細な情報
0	DEBUG	デバッグ用のきわめて詳細な情報。大量のメッセージが出力される可能性がある

3.1 困ったときに

トラブル例

電源ケーブルを接続してもPOWER LEDが点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか

同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか

別の電源コンセントに接続してください。

POWER LEDは点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ケーブルを接続してもLINK/ACT LEDが点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

SET SWITCH PORTコマンドで通信モードをオートネゴシエーション無効の固定設定、またはオートネゴシエーション有効で特定の通信速度/デュプレックスのみを通知するモードに設定することができます。接続先の機器を確認して、通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

コンポポートの10/100/1000BASE-Tポートは、オートネゴシエーション有効で1000Mbps/Full Duplexのみを通知するモード、1000Mbps光ポート(SFP)はオートネゴシエーション無効の1000Mbps/Full Duplex固定設定にのみ変更可能です。

正しいUTPケーブルを使用していますか

○ UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用してください。

(GS908M V2-4PS) PoE受電機器を接続する場合は、カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用してください。ケーブルの予備線(4,5,7,8)を使用して給電を行うPoE対応機器にも対応できるよう、8線結線のストレートタイプのUTPケーブルをお勧めします。

○ UTPケーブルのタイプ


通信モードがオートネゴシエーションの場合、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

MDI/MDI-X自動切替を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーション無効の固定設定にする場合は、MDIまたはMDI-Xのどちらかに設定する必要があります (デフォルトはMDI-X)。接続先のポートがMDIの場合は本製品のポートをMDI-Xに、接続先のポートがMDI-Xの場合は本製品のポートをMDIに設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

なお、SFPの1000BASE-Tポートで、MDI/MDI-X自動切替を無効に設定する、または通信モードをオートネゴシエーション以外に設定することはできません。

○ UTPケーブルの長さ

ケーブル長は最大100mと規定されています。


 **参照** 39ページ「ネットワーク機器を接続する」

LED消灯モードに設定されていませんか

本体前面SPD/DPX LED表示切替ボタンまたはCLI/GUIの設定でLED消灯モードに設定されていないかを確認してください。

LED消灯モードに設定すると、ステータスLED(下記のLED)を除く全LEDが点灯(点滅)しなくなります。

- ・ POWER
- ・ FAULT
- ・ STANDBY
- ・ TEMP (GS908M V2-4PSのみ)
- ・ FAN (GS908M V2-4PSのみ)
- ・ PoE LIMIT (GS908M V2-4PSのみ)
- ・ PoE PS GOOD (GS908M V2-4PSのみ)

 **参照** 26ページ「LED表示」

LINK/ACT LEDは点灯するが、通信できない

ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか

SHOW SWITCH PORTコマンドでポートステータス (Status) を確認してください。

PoE給電ができない (GS908M V2-4PS)

PoE給電機能が無効に設定されていませんか

SHOW POE PORTコマンドで表示されるPoE StatusでPoE給電機能の有効 (Enabled)、無効 (Disabled) を確認してください。

3.1 困ったときに

PoEポートの出力電力が設定された上限値を上回っていませんか

SHOW POE PORT コマンドで表示される Power Limit でポートの出力電力上限値 (mW) を確認してください。なお、電力管理モードが Actual モードの場合、クラス0~クラス3受電機器に対する出力電力の上限値は15.4Wに制限されます。


PoE電源の電力使用量がガードバンドに達していませんか

不意の給電停止を避けるため、PoE電源の最大供給電力にはガードバンドと呼ばれるマージンが設けられています。ガードバンドはデフォルトで10Wに設定されています。PoE電源の電力使用量が、最大供給電力(75W)からガードバンドを差し引いた値(65W)を上回ると、新たに受電機器を接続しても給電がされません。なお、ガードバンド値はSET POE GUARDBAND コマンドで変更することができます。

PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回っていませんか

クラス4受電機器は最大2ポート、クラス3受電機器は全ポート同時に給電ができません。

PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回ると、SET POE PORT コマンドの PRIORITY パラメーターでプライオリティを設定している場合は優先度の低い「LOW」のポートから、同一プライオリティの場合はポート番号の一番大きいポートから給電を停止します。

 40ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

コンソールターミナルに文字が入力できない

ケーブルや変換コネクタが正しく接続されていますか

本製品のコンソールポートは、RJ-45コネクタを使用しています。ケーブルは弊社販売品の「CentreCOM VT-Kit2 plus」、または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン(オス)以外の場合は、別途変換コネクタをご用意ください。

なお、「CentreCOM VT-Kit2 plus」は、USBポートへの接続が可能です。USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

 44ページ「コンソールを接続する」

通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか

同一のCOMポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COMポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容(通信条件)は正しいですか

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度(ボーレート)の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9600bpsです。

コンソールターミナルで文字化けする

COMポートの通信速度は正しいですか

通信速度（ボーレート）の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。COMポートの設定が9600bps以外に設定されていると文字化けを起こします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT互換機では[Alt]キーを押しながら[全角/半角]キーを押して入力モードの切り替えを行います。

ログインできない

ログインセッションの最大数を超過していませんか

本製品のログインセッション数はローカル、リモート(Telnet接続)合わせて5つまで(Telnetのセッション数は1~4までで変更可能。デフォルトは4)です。リモートから、Telnetの最大セッション数の指定より多いセッションを同時に開くことはできません。設定が終了したら必ずLOGOUTコマンドでログアウトするようにしてください。

3.2 SFP モジュール

本製品には、オプション（別売）で以下のSFPが用意されています。
各製品の対応SFPは下表をご覧ください（対応SFPは「○」で表示）。

—		GS908M V2	GS908M V2-4PS	GS916M V2 GS924M V2
AT-SPFX/2	100BASE-FX (2km) (2連LC)	—	○	○
AT-SPFX/15	100BASE-FX (15km) (2連LC)	—	—	○
AT-SPFXBD-LC-13/ AT-SPFXBD-LC-15	100BASE-BX (15km) (LC)	—	—	○
AT-SPSX	1000BASE-SX (2連LC)	○	○	○
AT-SPSX2	1000M MMF (2km) (2連LC)	○	○	○
AT-SPLX10	1000BASE-LX (2連LC)	○	○	○
AT-SPLX40	1000M SMF (40km) (2連LC)	○	—	○
AT-SPZX80	1000M SMF (80km) (2連LC)	○	—	○
AT-SPBD10-A/ AT-SPBD10-B	1000BASE-BX10 (LC)	○	—	○
AT-SPBD20-A/ AT-SPBD20-B	1000M SMF (20km) (LC)	○	—	○
AT-SPBD80-A/ AT-SPBD80-B	1000M SMF (80km) (LC)	○	—	○
AT-SPBDM-A/ AT-SPBDM-B	1000M MMF (550m) (LC)	○	—	○
AT-MG8T	1000BASE-T (RJ-45)*	○	○	—

※ AT-MG8Tによる10/100Mbps通信は未サポートです。



注意

弊社販売品以外のSFPでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。



ヒント

SFPの使用ケーブル、製品仕様については、SFPのインストレーションガイドをご覧ください。

SFP モジュールの取り付けかた



ヒント

SFPはホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本製品の電源を切る必要はありません。



ヒント

SFPには、スロットへの固定・取りはずし用にハンドルが付いているタイプとボタンが付いているタイプがあります。形状は異なりますが、機能的には同じものです。

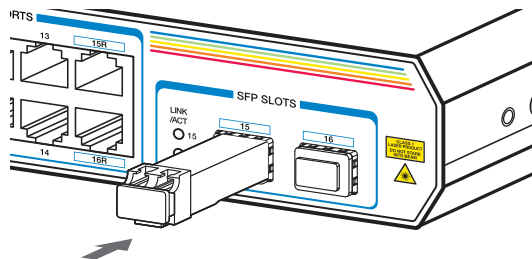


注意

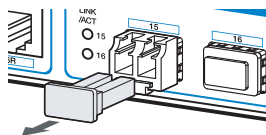
SFPの取り付け・取りはずしの際には、アースが施されたリストストラップを着用するなど静電防止対策を行ってください。

取り付け

- 1 SFPスロットに付いているダストカバーをはずします。
- 2 SFPの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッと合まるまで押し込みます。ハンドルが付いているタイプはハンドルを上げた状態で差し込んでください（下図はボタンが付いているタイプを差し込む例）。

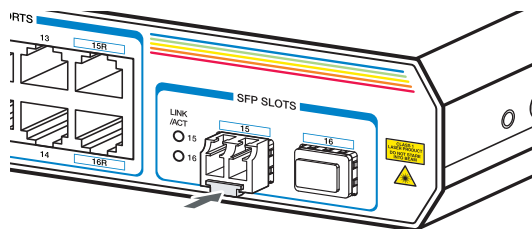


- 3 SFPに付いているダストカバーをはずします。



取りはずし

- 1 ケーブルをはずします。
- 2 ボタンが付いているタイプは下図のようにボタンを押し、ハンドルが付いているタイプはハンドルを下げてスロットへの固定を解除します。次にSFPの両脇を持ってスロットから引き抜きます。



光ファイバーケーブルを接続していないときは、必ずSFPモジュールのコネクタにダストカバーを装着してください。また、SFPスロットを使用していないときは、SFPスロットにダストカバーを装着してください。

3.3 Web GUI

本製品はWebブラウザを利用したグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) をサポートしています。ここでは、Web GUIを使用するための設定や操作について説明します。



Web GUIとCLIでは、操作手順や実行可能な項目に一部違いがあります。詳細は「コマンドリファレンス」の「Web GUI」の章を参照してください。

設定環境

本製品でWeb GUIを使用する場合は、下記の環境でご使用ください。

- Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6以上 (Windows版) を使用してください。
- モニターは、1024×768以上の解像度でを使用することをお勧めします。1024×768以上の解像度がない場合、一部のフレームが表示されないことがあります。
- ファイル転送は、Internet ExplorerのHTTP機能を利用します。



「ポップアップをブロックする」が有効な場合、本機能を使用することはできません。[ツール]メニューの[インターネットオプション]を選択し、[プライバシー]タブの「ポップアップ ブロック」の設定において、本製品のIPアドレスを許可する設定にしてください。



Internet Explorer 7以上のブラウザでファイル転送を行うには、[ツール]メニューの[インターネットオプション]で、[セキュリティ]タブの[レベルのカスタマイズ]をクリックし、「サーバーにファイルをアップロードするときにローカル ディレクトリのパスを含める」を有効にする設定にしてください。本設定は、Internet Explorer 7ではデフォルト有効に、Internet Explorer 8ではデフォルト無効になっています。



Internet Explorer 8でSmartScreenフィルター機能を有効にしていると、設定ファイルの取得に時間がかかる場合があります。この現象を回避するには、以下の方法を実行してください。

- 1 [ツール] ボタンをクリックし、[インターネット オプション] をクリックします。
 - 2 [インターネット オプション] 画面にて[セキュリティ] タブをクリックします。
 - 3 [ローカル イン트라ネット] をポイントしてから、[サイト] ボタンをクリックします。
 - 4 [ローカル イン트라ネット] 画面にて[詳細設定] ボタンをクリックします。
 - 5 ファイル ダウンロード元のサイトを入力し、[追加] ボタンをクリックします。
 - 6 [ローカル イン트라ネット] 画面および、[インターネット オプション] を閉じます。
- ファイルのダウンロード完了後、設定を元に戻すことを推奨します。

設定の準備

Web GUIを使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に以下の設定を行います。

IPアドレスを設定する

IPアドレスの設定方法については50ページ「操作の流れ」の「IPアドレスを設定する」を参照してください。

 50ページ「操作の流れ」

HTTPサーバー機能を有効にする

本製品のHTTPサーバー機能はデフォルトで無効 (Disabled) になっています。Web GUIを使用するには、HTTPサーバー機能を有効にしてください。

使用コマンド

```
ENABLE HTTP SERVER
SET HTTP LISTENPORT
SHOW HTTP SERVER
```

- 1 HTTPサーバー機能を有効にします。

```
Manager > enable http server 
```

- 2 HTTPサーバーのリスニングTCPポート番号を変更することができます。デフォルトは80です。

```
Manager > set http listenport=180 
```



セキュリティ確保のため、HTTPサーバーのTCPポート番号は変更することをお勧めします。

- 3 HTTPサーバー機能の設定は、SHOW HTTP SERVERコマンドで確認できます。

```
Manager > show http server 
```

```
HTTP Server Module Configuration:
-----
Status                : Enabled
HTTP Server Listen Port : 180
-----
```



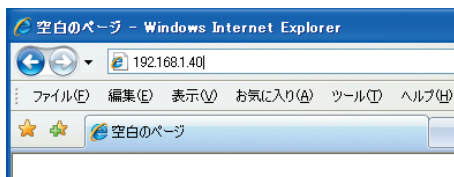
本製品のHTTPサーバー機能はWeb GUI専用です。その他の用途はサポート対象外ですので、ご了承ください。

3.3 Web GUI

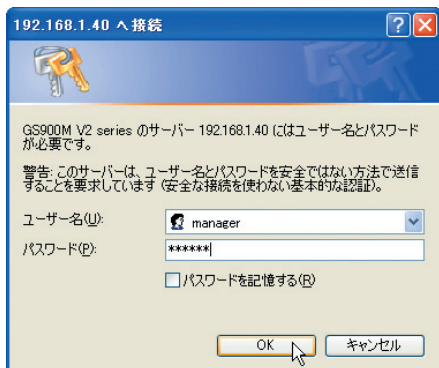
ログインする

Web ブラウザーを使用して本製品にログインします。

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 「アドレス」に本製品の IP アドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。ここでは、本製品に IP アドレス「192.168.1.40」が割り当てられていると仮定します。
本製品の HTTP サーバーの TCP ポート番号を変更している場合は、IP アドレスに続けて「コロン (:) TCP ポート番号」の形式で TCP ポート番号を入力します (例: 192.168.1.40:180)。



- 3 次のダイアログボックスが表示されたら、「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。ここでは、ユーザー名「manager」と初期パスワード「friend」を入力するものとします (入力したパスワードは「*」で表示されます)。
入力したら「OK」をクリックします。



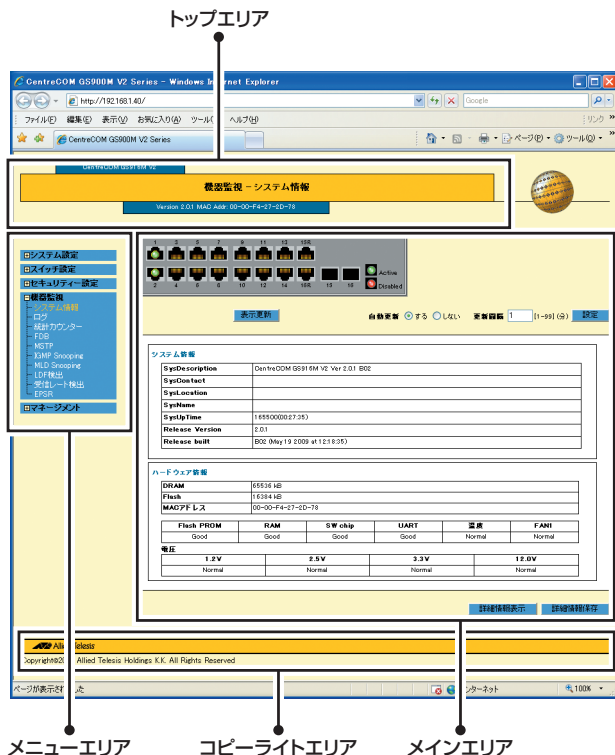
- 4 ログインに成功すると、下記の画面が表示されます。



本製品は、同時に複数のユーザーが Web GUI からログインすることが可能です。あるユーザーが設定を変更した後に、別のユーザーが同じ設定を変更した場合、設定は上書きされますのでご注意ください。

画面の構成

設定画面は、次の4つのエリアで構成されています。



トップエリア

トップエリア（画面上部のフレーム）には、製品名、現在選択されているメニュー項目、ファームウェアバージョン名、MACアドレスが表示されます。

現在選択されているメニュー項目は、「大項目 - 小項目」の形式で表示されます（例：機器監視 - システム情報）。メニュー項目は機能別におおまかなグループ分けがされています。大項目として表示されるのがグループ名、小項目として表示されるのがメニュー項目の最小単位の機能名です。

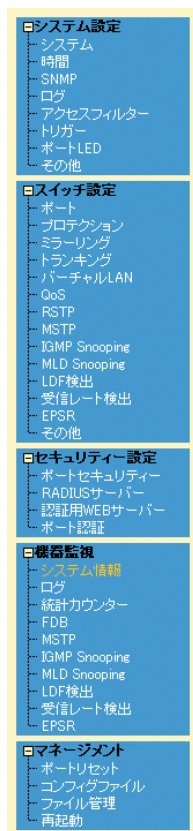
3.3 Web GUI

メニューエリア

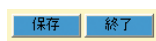
メニューエリア(画面左のフレーム)には、メニューがツリー状に表示されます。

メニューの大項目(グループ名)をクリックすると、小項目が表示されます。

小項目(機能名)をクリックすると、選択された項目は黄色で表示され、メインエリアにその機能に関する設定画面やステータス表示画面が表示されます。



メニューの上には、「保存」、「終了」の2つのボタンがあります。



「保存」ボタン

現在の設定内容を保存するボタンです。各設定画面の「設定」ボタンがクリックされると、「保存」ボタンが赤に変わります。

「終了」ボタン

本製品からログアウトし、設定画面を閉じます。

メインエリア

メインエリア (画面右のフレーム) には、メニューエリアで選択した小項目 (機能名) に関する、設定項目やステータスが表示されます。

コピーライトエリア

コピーライトエリア (画面下部のフレーム) には、弊社のロゴとコピーライト (著作権) が表示されます。

メインエリアの操作

メインエリアで使用する主な操作ボタンは、次のとおりです (下の画面は「バーチャル LAN」メニューの場合)。

VLAN名	VID	タグ付きポート	タグなしポート
de fault	1	None	all

「設定」ボタン

入力した内容を本製品の動作に適用するボタンです。「設定」ボタンのクリックにより、設定内容はただちに本製品の動作に反映されます。

「リセット」ボタン

入力した内容を消去し、本製品に適用した設定内容 (機器からの読み込み値) に戻すボタンです。

3.3 Web GUI

「追加」ボタン

テーブルにエントリーを追加するボタンです。「追加」ボタンをクリックすると、設定画面が表示されるので、必要な項目に入力して「適用」ボタンをクリックします。

「変更」ボタン

すでにテーブルに追加・登録されているエントリーを変更するボタンです。変更したいエントリーのラジオボタン(またはチェックボックス)をクリックして、「変更」ボタンをクリックします。設定画面が表示されるので、必要な項目に入力して「適用」ボタンをクリックします。

「削除」ボタン

すでにテーブルに追加されているエントリーを削除するボタンです。

設定を保存する

設定内容は「設定」ボタンのクリックによってただちに本製品に反映されますが、ランタイムメモリー上にあるため、本製品を再起動すると消去されます。

再起動後も同じ設定で運用したい場合は、設定内容をスクリプトファイルに保存します。

1 「保存」ボタンをクリックします。

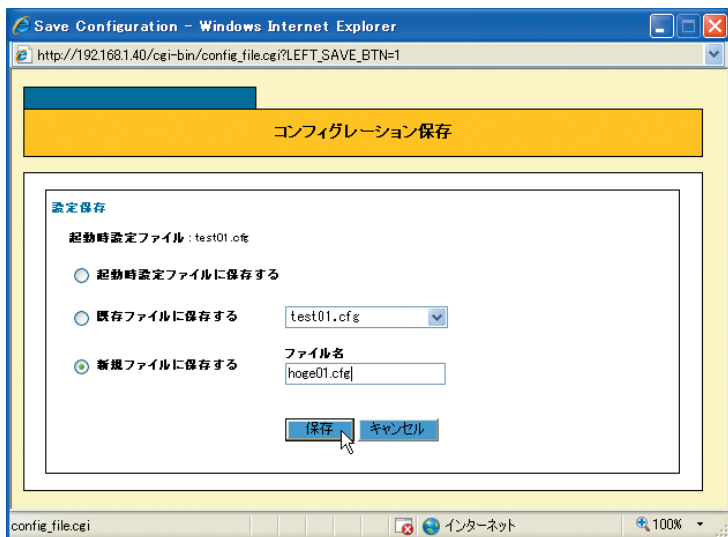
2 「コンフィグレーション保存」画面が表示されます。

新規にファイルを作成して保存する場合は、「新規ファイルに保存する」ラジオボタンをクリックして、ファイル名を入力してください。

「起動時設定ファイルに保存する」ラジオボタンをクリックすると、現在選択されているファイル(起動時設定ファイル)に上書き保存します。

「既存ファイルに保存する」ラジオボタンをクリックすると、現在本製品のファイルシステムに保存されている設定ファイルに保存します。プルダウンメニューから保存するファイルを選択してください。

最後に「保存」ボタンをクリックします。



- 3 保存が完了すると、「コンフィグレーション保存」画面が閉じ、「保存」ボタンは赤から青に戻ります。


起動時に読み込まれるデフォルトの設定スクリプトファイル（起動時設定ファイル）を指定する場合は、「コンフィグファイル」メニューで行います。

- 1 メニューエリアの「マネージメント」をクリックします。
- 2 「コンフィグファイル」をクリックし、「コンフィグファイル」画面を表示します。
- 3 「起動時設定ファイル変更」でプルダウンメニューから起動時に読み込まれるデフォルトの設定スクリプトファイルを選択します。
- 4 「設定」ボタンをクリックします。

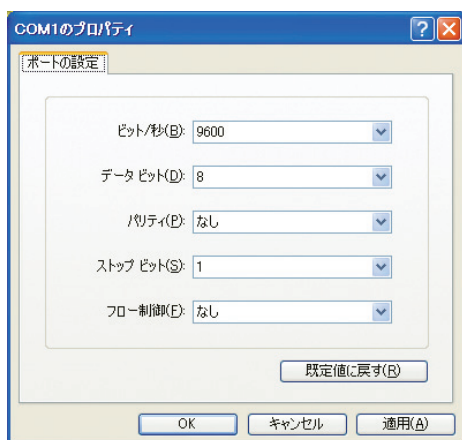
3.4 ハイパーターミナルの設定

コンソールターミナルとして、Windows 2000/XPに標準装備のハイパーターミナルを使用する例を示します。

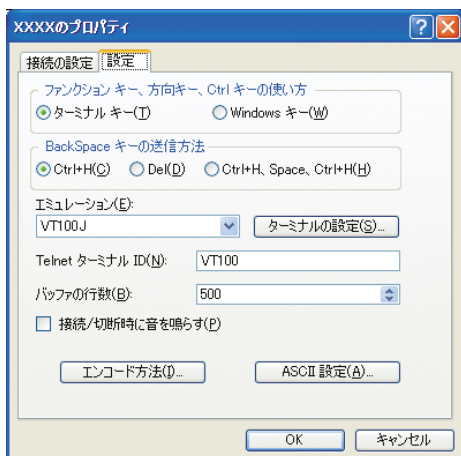
(コンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」、または「CentreCOM VT-Kit2」は、COM1に接続すると仮定します。)

 お使いのOSによっては、ハイパーターミナルが標準添付されていないことがあります。別途、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)をご用意ください。

- 1 ハイパーターミナルを起動します。
[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム(すべてのプログラム)] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。
- 2 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。
- 3 接続方法を設定します。
Windows 2000の場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。
Windows XPの場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。
- 4 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。
(下の画面はWindows XPの場合)



- 5 「XXXX-ハイパーターミナル (HyperTerminal)」のような、手順2で設定した名前のウィンドウが表示されます。
- [ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。次に [設定] タブをクリックし、各項目を下図のように設定し、[OK] をクリックします。
- (下の画面はWindows XPの場合)



- 6 以上で、設定が終わりました。
- [Enter] キーを押すとログインセッションが開始され、「login: 」プロンプトが表示されます。

3.5 Telnet クライアントの設定

本製品はTelnetサーバーを内蔵しているため、他のTelnetクライアントからネットワーク経由でログインすることができます。

ここでは、Windows 2000/XPのTelnetクライアントの設定方法を説明します。



ヒント

Telnetを使用する場合は、あらかじめコンソールターミナルで本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。

 参照 50ページ「操作の流れ」

1 ネットワークに合わせてTCP/IPプロトコルの環境設定を行います。

Windows 2000の場合-[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に[コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。次に[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows XPの場合-[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に[ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

各製品に添付されているマニュアルをご覧ください。IPアドレスなどを正しく設定してください。

2 Telnetクライアントを起動します。

[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET 192.168.200.1」のように、TELNETに続けて本製品のIPアドレスを指定することもできます。

3 ターミナルの設定を行います。

次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。漢字コードセットをシフトJISに設定するには、SET CODESET Shift JISコマンドを実行します。

```
Microsoft Telnet> SET TERM VT100
```

4 本製品のTelnetサーバーに接続します。

次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。OPENに続けて本製品のIPアドレスを指定します。

```
Microsoft Telnet> OPEN 192.168.200.1
```

5 以上で、設定が終わりました。

[Enter] キーを押すとログインセッションが開始され、「login: 」プロンプトが表示されます。

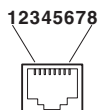
3.6 仕様

ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の仕様について説明します。

コネクタ・ケーブル仕様

10/100/1000BASE-T (PoE) インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。

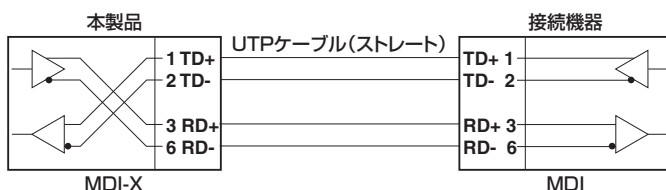


コンタクト	10BASE-T/100BASE-TX		PoE
	MDI信号	MDI-X信号	オルタナティブA
1	TD + (送信)	RD + (受信)	-V
2	TD - (送信)	RD - (受信)	-V
3	RD + (受信)	TD + (送信)	+V
4	未使用	未使用	未使用
5	未使用	未使用	未使用
6	RD - (受信)	TD - (送信)	+V
7	未使用	未使用	未使用
8	未使用	未使用	未使用

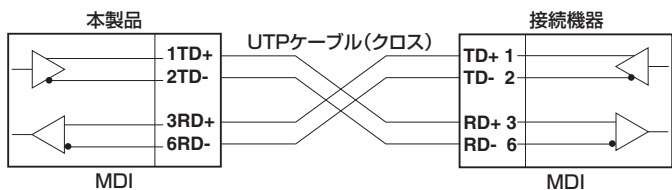
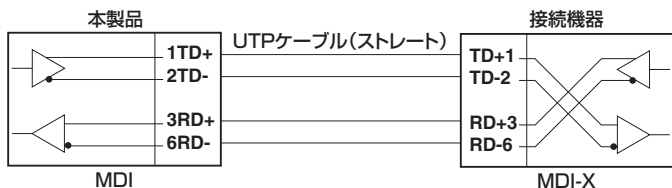
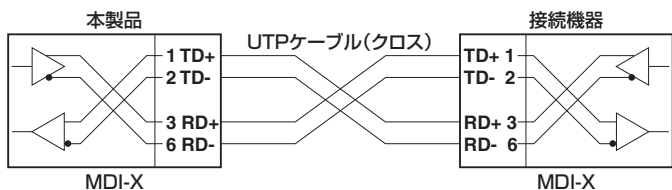
コンタクト	10/100/1000BASE-T	
	MDI	MDI-X
1	BI_DA +	BI_DB +
2	BI_DA -	BI_DB -
3	BI_DB +	BI_DA +
4	BI_DC +	BI_DD +
5	BI_DC -	BI_DD -
6	BI_DB -	BI_DA -
7	BI_DD +	BI_DC +
8	BI_DD -	BI_DC -

ケーブルの結線は下図のとおりです。

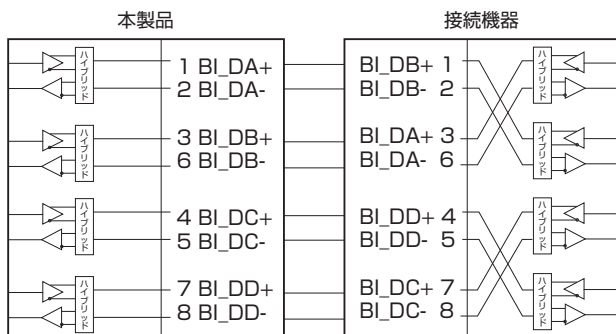
○ 10BASE-T/100BASE-TX



3.6 仕様

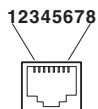


○1000BASE-T



RS-232 インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	NOT USED	未使用
3	TXD (SD)	送信データ
4	GND (SG)	信号用接地
5	GND (SG)	信号用接地
6	RXD (RD)	受信データ
7	NOT USED	未使用
8	CTS (CS)	送信可

3.6 仕様

本製品の仕様

	GS908M V2	GS908M V2-4PS	GS916M V2	GS924M V2
準拠規格				
	IEEE 802.3 10BASE-T, IEEE 802.3u 100BASE-TX/FX IEEE 802.3ab 1000BASE-T, IEEE 802.3z 1000BASE-SX/LX IEEE 802.3ah 1000BASE-BX, 1000BASE-BX10 IEEE 802.3at Power over Ethernet (GS908M V2-4PSのみ) IEEE 802.3x Flow Control IEEE 802.3ad Link Aggregation (Manual Configuration) IEEE 802.1D Spanning Tree (STP Compatible) IEEE 802.1Q VLAN Tagging IEEE 802.1X Port Based Network Access Control IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol IEEE 802.1s Multiple Spanning Tree IEEE 802.1w Rapid Spanning Tree			
適合規格				
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1			
EMI規格	VCCIクラスB	VCCIクラスA		
電源部				
定格入力電圧	AC100-240V			
入力電圧範囲	AC90-264V			
定格周波数	50/60Hz			
定格入力電流	0.3A	1.4A	0.5A	0.6A
最大入力電流(実測値)	0.2A	1.3A	0.4A	0.53A
平均消費電力	8.6W(最大12.0W)	58W(最大110W)	17W(最大22W)	25W(最大30W)
平均発熱量	30kJ/h (最大44kJ/h)	210kJ/h (最大400kJ/h)	63kJ/h (最大80kJ/h)	90kJ/h (最大110kJ/h)
PoE				
給電方式	—	オルタナティブA	—	—
最大供給電力	—	装置全体：75W 1ポートあたり：30.0W	—	—
環境条件				
保管時温度	-20～60℃			
保管時湿度	95%以下(ただし、結露なきこと)			
動作時温度	0～50℃*			
動作時湿度	80%以下(ただし、結露なきこと)			
外形寸法				
	263(W)×179(D) ×38(H)mm	210(W)×260(D) ×44(H)mm	341(W)×210(D) ×44(H)mm	440(W)×210(D) ×44(H)mm
質量				
	1.4kg	2.2kg	2.0kg	2.7kg
スイッチング方式				
	ストア&フォワード			
MACアドレス登録数				
	8K(最大)			
メモリー容量				
パケットバッファ容量	512KByte			
フラッシュメモリー容量	16MByte			
メインメモリー容量	64MByte			

※ ただし、GS908M V2/GS924M V2でAT-SPLX40、AT-SPZX80、AT-SPBD80-A/AT-SPBD80-B
使用時は0～45℃

サポートするMIB	
	MIB-II (RFC1213) ブリッジMIB (RFC1493) イーサネットMIB (RFC2665) インターフェース拡張グループMIB (RFC2863 [if X Entry]) Dot1q MIB (RFC2674) PoE MIB (RFC3621) プライベートMIB

オートファンコントロール (GS908M V2-4PS / GS916M V2 / GS924M V2)

GS908M V2-4PS/GS916M V2/GS924M V2は、ファンを動作時温度（外気温度）に応じて自動的に回転・停止させるオートファンコントロールに対応しています。ファームウェアバージョン2.1.0以降のファームウェア搭載時、ファンは自動的に以下のような動作をします。

電源投入時	回転
ファームウェアの読み込み完了時	停止
内部温度が監視しきい値を上回ったとき	回転
内部温度が監視しきい値を下回ったとき	停止

なお、ファンが回転を開始する外気温度の目安は以下のとおりです。

条件	GS908M V2-4PS	GS916M V2	GS924M V2
全標準ポート使用時 (100%負荷)	12℃	36℃	30℃
全標準ポート+SFPポート使用時 (100%負荷)	12℃	35℃	30℃

3.7 保証とユーザーサポート

保証、修理について

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Tel: ☎ 0120-860332

携帯電話／PHSからは： 045-476-6218

月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesesis.co.jp/support/info/>

Tel: ☎ 0120-860772

携帯電話／PHSからは： 045-476-6203

月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00 13:00～17:00

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

1 一般事項

- サポートの依頼日
- お客様の会社、ご担当者

- **ご連絡先**
すでに「サポートID番号」を取得している場合、サポートID番号をお知らせください。サポートID番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡住所などの詳細は省略していただいてもかまいません。
- **ご購入先**

2 使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

- シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)をお知らせください。
シリアル番号とリビジョンは、本体に貼付されている(製品に同梱されている)シリアル番号シールに記載されています。



- ファームウェアバージョンをお知らせください。
ファームウェアバージョンは、SHOW SYSTEM コマンドで表示されるシステム情報の「Release Version」の項で確認できます。
- オプション(別売)製品を使用している場合は、製品名をお知らせください。

3 問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできるだけ具体的に(再現できるように)お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をお知らせください。
- 可能であれば、設定ファイルをお送りください(パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

4 ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2009-2011 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

※ GS908M V2はVCCIクラスB、GS908M V2-4PS/GS916M V2/GS924M V2はVCCIクラスA適合製品です。

VCCIクラスA:

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

VCCIクラスB:

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出または「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2009年 6月	Rev.A	初版
2011年 1月	Rev.B	GS908M V2-4PS追加

